



広西チワン族自治区・南寧市

若手担当者が変えるプロジェクトの進め方

世界銀行タスク・チーム・リーダー 鎌田卓也

WATCH FIRE

【開発途上国の明日】



これは南寧市が予備調査を進めているプロジェクトの定期会合である。投資総額は250億円、8本の川の水質改善を目的としている。この日も市や自治区の関係部局、下水処理や堤防管理の公益法人、技術設計会社など、25の官民組織から40人以上の責任者が出席した。

予備調査には、このように数多くの組織が参画し、技術や設計の適正さや環境への影響、投資効率など、プロジェクトのあらゆる面を検討する。調査が進むにつれ計画は刻々と修正されるので、各分野の分析に食い違いのないよう、膨大な調整作業が行われる。さらに、市・省・国の何十もの関係当局の合意も得なければならぬ。調査期間は短いもので数カ月、長いものは10年にも及ぶ。

この件の予備調査は驚異的な速さで進んでいる。それを支えているのは、主管である同市発展改革委員会の若手の担当者たちだ。欧米の大学への留学経験もある彼らは、専門知識の吸収が早く、効率性を重視する。関係者への連絡は携帯電話やメールで瞬時に済ませる。会議では、儀礼的な冒頭演説は省き、実務についてスケジュールどおり議論を進めてゆく。根回しに不可欠とされていた宴会にもあまり長座しないようだ。

進取の気風に富む南寧市にふさわしい、新世代のプロフェッショナルたちの姿である。(写真も筆者)